

# 第1回学校評議員会 会議録

開催日時	令和6年(2024年)7月18日(木) 17時30分～19時00分		
会場	北海道厚岸翔洋高等学校 校長室		
出席者数	学校評議員 4名	学校 3名	
出席者名 (五十音順)	岩崎 純史 (厚岸町商工会) 車塚 洋 (厚岸町教育委員会) 福原 通雄 (本厚岸郵便局) 山内 公 (厚岸翔洋高等学校同窓会)	校長 山本 十三 教頭 長谷川 智人 事務長 土池 健吾	
	校長が意見を求めた事項	学校評議員の意見・質問	
	<p>下記の資料をもとに、令和6年度の教育目標及び計画、教育活動の実施、学校と地域との連携の進め方などについて説明し、本校の学校運営に関する意見等を求めた。</p> <p>&lt;資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校沿革</li> <li>2 学校教育目標等と学校経営シラバス</li> <li>3 教職員の構成</li> <li>4 生徒の状況</li> <li>5 地域の信頼に応える特色ある教育活動</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の状況について (いじめの実態把握) <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの件数は、いじめであると明確になっていないケースも含まれているのか。 →明確なケースを計上しているが、些細な内容のものも含んでおり、その都度委員会を開いて協議し、認知している。</li> <li>・把握方法はアンケートによるものか。 →年2回のアンケートの他、担任との教育相談や、生徒指導事故を通じて把握することもある。</li> <li>・些細なことでも認知件数とするのは、道教委の考えか、学校の考えか。 →道教委であり、基は国の考え(いじめ防止対策推進法)である。</li> <li>・些細なケースの例を聞くと、「いじめ」という言葉と合っていないと感じる。説明されると理解できる。</li> </ul> </li> <li>2 生徒の状況について (入学者数) <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の中学校卒業生の何%が入学しているのか。 →20%台である。</li> <li>・翔洋への進学に中学校の担任が協力的であればいいが、自らが翔洋の卒業生でも子供は釧路の高校に行かせる保護者もいると聞く。 →学校は落ち着いていて、国公立大学への進学者もあり、学びの環境も良いので、翔洋を選択するメリットをPRしていきたい。</li> </ul> </li> <li>3 特色ある教育活動 (マイスター・ハイスクール事業の取組) について <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイスター・ハイスクール事業が今年度で終了するので</li> </ul> </li> </ol>	

	<p>あれば、海水温等のデータを取得する取組を漁協で引き継ぐべきではないか。厚岸と言えば牡蠣が特産であり、牡蠣の養殖には水温の把握が非常に重要で、わざわざ燃料を使って船を出して見に行かなくてもそれが把握できるのであれば、漁協がお金をかけてでも引き継ぐべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業後継や、漁協や役場、振興局等に就職することで、取組を継続してほしい。</li> </ul> <p>→学校としても来年度から新しい科目を設定して取組を継続していくが、通信料等の費用面が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までは漁師さんの経験や勘でやっていたことも、10年後にはこのようにデータを活用することが普通になるのではないか。海の状況も変わってきており、データの裏付けは重要である。こういう取組が行われていることがもっと伝わってほしい。</li> </ul> <p>→海水温等のデータはスマホでも見られるようになっているので是非活用してもらいたいし、それが地域貢献にも繋がると考えている。</p>
<p>上記のとおり会議を開催した。</p> <p style="text-align: right;">令和6年(2024年)7月18日 北海道厚岸翔洋高等学校長 山本十三</p>	

※ 別の書式により意見聴取の内容を整理している場合は、それを添付して保管すること。

※ 配布資料等を添付し保管すること。